



# イーハトーブ

3月25日号

2025春闘は3月12日が集中回答日で、自動車や電機など多くの大企業では昨年に続き満額回答を示した。中には組合側の要求額を上回るケースもある。昨年は連合傘下の労働組合での平均賃上げ率は33年ぶりに5%台となったが、今年はその上回る可能性が出てきている。一方、中小企業では労使交渉すら行えないところもあり、昨年の賃上げ率は全体平均を大幅に下回った。雇用の約7割を担う中小企業の交渉が今後本格化していく。連合は中小企業の賃上げに力を入れているが、実際に高水準の賃上げが得られるかは不透明である。高水準の賃上げが進まなければ実質賃金はマイナスが続く、消費拡大による景気の好循環は望めない。満額回答が続く春闘は中小企業にもつなげてこそである。さらに、立場の弱い非正規労働者の現実もしっかりと見なくてはならない。非正規では連帯も厳しく賃上げ交渉の場が閉ざされがちであり、職種を超えて連帯や統一的な要求ができる仕組みを構築して後押ししなければならない。

そのような中、JR東日本は3月6日に回答を行った。昨年よりさらに早く回答し、ペアの格差は昨年の1.5倍に拡大。「到底納得できるものではない」と訴えている声が多い。回答の直後には新幹線が分離する重大事象も再発し、真の原因も分からないまま対策を行い安全は二の次である。最近話題になったフジテレビの会見後に、この体たらくに絶望したフジテレビの社員が労働組合に入り組合員数が80人から500人に激増した報道を見れば、労働組合が駆け込み寺として、賃上げ要求だけでなく職場での悲痛な叫びを掴み出し、悲惨な現実にもスを入れていかなければならない。

日本の労働者は長い間賃金を抑制され、大企業や富裕層のみが潤う歪んだ社会がつくられてきた。この歪みを是正していくには多くの労働者が団結し、声を上げていくしかない。公平な社会や暮らしを守るのは、やはり労働組合である。私たちは一切泣き寝入りしない。一人ひとりが声を出して仲間と共に行動しながらたたかい、勝ち取っていく！(T.O)

## イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していくという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。